

令和 7 年千葉市教育委員会会議  
第 1 回臨時会会議録

千葉市教育委員会

# 令和 7 年千葉市教育委員会会議第 1 回臨時会会議録

日時 令和 7 年 3 月 3 日 (月)

午後 2 時 0 0 分開会

午後 2 時 2 7 分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員	教 育 長	鶴岡 克彦
	員	小西 朱見
	員	大山 尋美
	員	大濱 洋一
	員	杉山 浩
	員	磯邊 聡

出席職員	教 育 次 長	秋幡 浩明	総 務 課 長	山田 利雄
	教 育 総 務 部 長	香取 徹哉	教 育 職 員 課 長	川島 政美
	学 校 教 育 部 長	川名 正雄	総 務 課 総 括 主 幹	酒井名菜子
	生 涯 学 習 部 長	齋木久美子		

書 記	総務課総務班主任査	猪飼 恭平	総 務 課 主 任 主 事	丸山 貴裕
-----	-----------	-------	---------------	-------

- 1 開会  
鶴岡教育長より開会を宣言
- 2 会議の成立  
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名  
鶴岡教育長より小西委員を指名
- 4 会期の決定  
令和7年3月3日（1日間）とすることで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定  
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 非公開審議の決定  
議案第5号を非公開審議とする旨決定

7 議事の概要

(1) 議決事項

議案第5号 職員の人事について

川島教育職員課長より説明があった後、全委員異議なく、原案どおり可決した。

(2) 発言の要旨

議案第5号 職員の人事について

教 育 長 議案第5号「職員の人事について」、教育職員課長、説明をお願いします。

教育職員課長 議案第5号「職員の人事について」ですが、当該議案は令和7年3月31日付け及び同年4月1日付け千葉市立小学校、中学校、特別支援学校及び中等教育学校の校長、副校長及び教頭の管理職人事発令につきまして、千葉市教育委員会組織規則第8条第4号の規定に基づき、議決を求めるものです。

本年4月1日付けの管理職の人事発令におきましては、「令和6年度末及び令和7年度公立学校教職員人事異動方針」に基づき、特に次の事項に配慮しました。

(1) 定年の段階的な引上げ期を踏まえ、管理能力に優れ、高い識見を有した管理職の登用に努めたこと。

(2) 本市学校教育の安定的運営のために、暫定再任用校長を継続6人、特例校長を10人、新規22人、計38人を登用したこと。

- (3) 学校のマネジメント機能の強化を図るために、令和6年度に引き続いて、令和7年度も教頭の複数配置を行うこと。
- (4) 教育効果を高め、調和的な学校運営が行われるよう、適材適所の管理職人事を推進したこと。
- (5) 10年後を見据えて、若手を積極的に登用したこと。
- (6) 女性管理職の登用について、積極的に推進したこと。特に校長職です。

なお、管理職登用にあたり、原則、同一校での昇任は行っておりません。

それでは、具体的な内容をご説明します。お手元の人事異動一覧に従いまして「1 校長の部」から説明します。

まず3ページ「1 役職定年」ですが、60歳で役職定年を迎えるものは、現「新宿小学校 校長 栗和田 耕」をはじめ11人です。内訳としては、小学校10人、中学校1人であり、そのうち、現「都賀小学校 校長 小玉 理恵子」をはじめ4人の女性校長が役職定年となります。

次に「2 定年退職」ですが、61歳で定年を迎えて退職するものは、現「園生小学校 校長 宇井 高一」をはじめ、8人です。

次に「3 退職・暫定再任用校長」ですが、現「花園小学校 校長 古川 誠一」をはじめ、4人です。

次に4ページにあります「4 新任」ですが、現「新宿小学校 教頭 小原 圭子」を「坂月小学校 校長」に昇格させるのをはじめ、計22人、これに加えて管外の新任が1人いますので計23人を昇格させたいと考えております。内訳としては、小学校が13人、管外1人を含めると合計14人となります。中学校は9人です。新任校長のうち、最年少は、現「●●学校 教頭 ●● ●●」をはじめ4人が次年度で53歳となります。また、最年長の校長は58歳となる現「●●●●●●●●●●●●●● ●●●●●●●● ●● ●●」となります。また新任校長の平均年齢は、約54.6歳です。

女性の登用ですが、新任校長は管外異動者も含めて11人で、女性校長の全体の数には64人となり、今年度より5人増となります。

次に、「5 転出」ですが、県との人事交流を終えて、現「大椎中学校 校長 齋藤 文孝」が「市原市立湿津中学校 校長」

へ帰任します。

次に、「6 転入」ですが、県との人事交流を終えて現「船橋市立海神南小学校 校長 寺田 武央」が「上の台小学校 校長」として帰任いたします。

次に、「7 管外に新任校長として転出」ということになりますが、現「稲毛小学校 教頭 渡辺 千映子」が、「市原市立湿津小学校」へ新任校長として赴任します。

さらに、「8 採用」ですが、こちらも県との人事交流で、現「千葉県子どもと親のサポートセンター 研究指導主事の阿部 雅子」を「西の谷小学校 校長」として、採用するものです。

次に5ページにあります「9 配置換」ですが、現「磯辺第三小学校 校長 岡田 直美」を「園生小学校 校長」に配置換えをするのをはじめ、23人を配置換えします。内訳ですが、小学校19人、中学校3人、特別支援学校1人です。

次に「10 特例校長」ですが、新たに現「大森小学校 校長 樋口 雅也」を「本町小学校 校長」に特例任用するのをはじめ、10人を特例校長として任用します。内訳は、現任校が4人、配置換えが6人となっています。

次に「11 暫定再任用校長」ですが、現「寒川小学校 校長 渡邊 智之」を引き続き、「寒川小学校 校長」に再任用するのをはじめ、6人を校長として再任用します。内訳は、現任校が5名、配置換えが1人となっています。

次に6ページにあります、「12 学校から行政への配置換」ですが、こちらは校長から教育委員会事務局に転入する者です。現「打瀬中学校、校長 藤本 朱子」をはじめ5人です。これらの者の平均年齢は55.0歳で、5名とも、これまでに本市又は教育委員会事務局での勤務を経験しています。

次に「13 行政から学校への配置換」ですが、教育委員会から、再度、校長として学校現場に転任するのは、現「教育指導課 課長 八斗 孝之」を「新宿小学校 校長」に配置換えするのをはじめ、5人です。この5人の校長相当職としての教育委員会事務局在職年数は、平均3.6年となっています。

ここまでの校長の異動です。校長の異動にあたっては、学校規模や学校の状況、過去に勤務経験があり学区を熟知している学校であるか、また、研究指定校の有無や生徒指導上の課題等を勘案しながら、専門教科やこれまでの経験、実績を踏まえて適正配置に努めたところです。なお、「9 特別支援学校」につ

いては、特別支援教育に長けた校長を配置するなど、配慮したところでは、

次に、7 ページ「2 副校長の部」について説明します。「1 退職」「2 新任」とともに、該当はいません。

次に、「3 教頭の部」について説明します。

まず、「1 役職定年」ですが、現「真砂西小学校 教頭 小熊 繁」をはじめ3人です。

次に「2 定年退職」ですが、現「貝塚中学校 教頭 石塚 直樹」です。

次に「3 退職」ですが、自己都合により現「千城台わかば小学校 教頭 高瀬 景子」が退職いたします。

なお、「4 降任」につきましては、該当はいません。

次に、「5 新任」ですが、現「検見川小学校 教諭 宮奈 香織」を「新宿小学校 教頭」に昇格させるのをはじめ、30人を昇格させたいと考えています。内訳は、小学校18人、中学校11人、特別支援学校1人で、昇格者の平均年齢は、46.8歳で昨年より0.1歳下がりました。最年少は次年度で44歳となる現「●●●●● ●●●● ●● ●●」をはじめ8人です。

最年長は現「●●●●学校 ●● ●● ●●」が「●●●●●●●●学校 教頭」に次年度末53歳で昇格となっています。

また、女性の登用ですが、現「山王小学校 主幹教諭 小林 あゆみ」を「誉田小学校 教頭」に昇格させるのをはじめ7人です。これにより、令和7年度の女性教頭は、令和6年度の41人から3人減り、38人となります。

次に、8 ページの「6 転出」ですが、県との人事交流を終えて、現「高洲中学校 教頭 櫻井 智之」が「習志野市教育委員会」へ帰任します。

次に、「7 転入」ですが、県との交流を終えて、現「市原市立国分寺台東小学校 教頭 中島 健介」が「蘇我小学校 教頭」として帰任します。

次に「8 管外に教頭として転出」ですが、現「山王小学校 教頭 曾根 庄」が「浦安市立高洲北小学校 教頭」として赴任します。

さらに「9 採用」ですが、県との人事交流により、「市原市立水の江小学校 教諭 小野田 瑞枝」を「高洲第三小学校 教頭」として、採用するものです。

次に、「10 配置換」ですが、現「幸町小学校 教頭 星野

直人」を「登戸小学校 教頭」へ配置換えするのをはじめ５７人です。内訳は、小学校３３人、中学校２２人、特別支援学校２人です。

校長の配置換えと同様、経験年数、教科等の専門性、学校規模等、様々な要件を考慮して、適材適所の配置に努めるとともに、新任の教頭については校長経験者と組み合わせ、そして、教頭経験者については新任の校長と組み合わせるなど、校長・教頭の経験年数に応じてバランスの取れた配置となるよう配慮したところです。

また、校長がマネジメント能力を発揮し、複雑化・多様化した課題を抱える状況を改善するとともに、学校の教育力を向上させていくために、教頭の複数配置を行います。教頭の複数配置により学力向上等の取組みや、児童生徒の指導や保護者との関わり等をよりきめ細やかに行うことができるなど、学校運営体制や指導体制の充実が期待されるとともに、教頭や教職員の働き方改革につながる取組みと考えています。令和７年度は、令和６年度に引き続き小中台小学校、小中台中学校、第二養護学校、稲毛中学校等を教頭複数配置とします。

次に、「１１ 特例教頭」ですが、該当はいません。

次に、１０ページにあります「１２ 配置換 学校から行政へ」ですが、教頭職から教育委員会事務局へ異動する者は、現「登戸小学校 教頭 齋藤 義則」をはじめ１６人です。これらの者の平均年齢は４８．９歳です。

「１３ 行政から学校への配置換」ですが、教育委員会から、再度、教頭として学校現場に転任するのは、現「保健体育課 主任指導主事 東 大介」を「寒川小学校 教頭」に配置換えするのをはじめ、２人となります。

また、管理職の推移につきましては、別表のとおりですので、ご確認ください。

最後になりますが、これらは今後若干の調整が入る場合がありますことをご了承いただければと存じます。以上でございます。

教 育 長 審議に移りますが、質問等含め、何かありますか。

委 員 教頭の配置換えの人数が大変多いのですが、例年より多くなっているのは、どういう理由があるのでしょうか。

教育職員課長 ５０代の前半辺りが採用の人数が極めて少なかった時期になりますので、どうしてもその部分が空いているところで多くの

者が下から上に上がってくるという形になります。年齢構成によつての状況とご理解いただければと思います。

委員 定義を教えてください。1番の役職定年は60歳で校長職は定年となるけれども、引き続き教育現場に残るということでしょうか

教育職員課長 役職定年は60歳ということで、校長職を一度退くことになりますが、その後の選択肢としまして、定年までは校長を希望して選考された場合には、特例校長という立場になります。一方で、主幹教諭として、初任者指導や実際に学級担任になって授業をするなどの選択肢があります。

委員 特例校長か、主幹教諭として教育現場に残りうると。

教育長 基本的に役職定年は60歳をもってこの役職は終わりだというルールがまずあります。その終わったと同時に2つ階級が下がる主幹教諭になるというのが原則です。ただ、学校事情やその人の特性により、再度校長として残っていただくという場合は特例校長として残る、特例校長として残らない場合は基本的には主幹教諭という立場になって初任者指導等にあたるなどの役職になっています。

委員 どちらもフルタイムですか。

教育職員課長 主幹教諭はフルタイムです。

教育長 年齢でいうと、この3ページ1番の役職定年が60歳、2番の定年退職が61歳、3番の退職・暫定再任用校長が62歳です。

委員 定年退職というのは現場から去るということですか。

教育職員課長 現在、段階的に退職年齢を2年に1回上げている関係で、60歳で役職は降りるのですが、今年の退職は61歳となります。

また、来年と再来年は62歳が退職年齢となります。

委員 最後は65歳まで引き上げるということですか。

教育長 60歳の人たちは61歳が定年で、私は今60歳ですが、62歳で定年となります。というように、65歳まで段階的に上がっていきます。

委員 特例校長が役職定年の後の選択肢の1つということですがこの暫定再任用校長とはどういうものなのですか。

教育職員課長 段階が3段階ありまして、まずは、役職定年はこれから先も60歳です。ここで一度校長の仕事につきましては一区切りで、段階的に定年が上がっていくのですが、その定年の年齢までは校長を希望する場合には選考により特例校長になることが可能



です。

一方、段階的に上がっていた定年の年齢を超えますと、暫定再任用という形で校長になる場合がケースによっては出てくるという状況です。60歳までの校長、特例校長、暫定再任用校長の3つの言葉が混在しております。

教 育 長 定年の年までやる校長が特例校長。定年の年になってもなおかつ校長をやる場合には、今度は特例校長ではなくて暫定再任用校長という言い方に変わります。

委 員 かなり特例というか特殊というか、余人をもって代え難しという場合でしょうか。

教 育 長 1つのルールではないのですが、原則として考えているのが、課題がある学校などでもう一年校長として残ってもらえませんかという特例校長と、今いる学校が特に課題があるわけではないが、この課題に対応していただきたい先生はあなただと思うので、異動して特例校長をやってもらえませんかという校長がいます。

特例校長が残る場合は基本的には1年間だけ残り、異動してもらう校長には最低2年間はやらしてもらわなければいけないので、そういう形で終わる年が61歳で終わる人と62歳で終わる人が出てくるという状況があります。そこで名称が変わってくることになっています。

委 員 暫定という言い方がすごく、暫定なのですね、という気がしましたので。

教 育 長 もう一つ正直に言うと給料が変わってくるんです。

委 員 人事交流の期間は何年ですか。

教育職員課長 基本的には3年間で予定しております。

教 育 長 今、校長の話をしていますが、教頭も同じシステムです。特例教頭というものがあります。今年は石塚さんという方が1人残ったので、特例教頭が定年退職になっていると思います。7ページです。

委 員 千葉市の場合は養護教諭が管理職になることはあるのでしょうか。

教育職員課長 基本的に管理職選考を実施しておりますので、受験結果により管理職になる場合があります。現状はいないという状況です。

学校教育部長 過去に、養護教諭が教頭、校長になった例はあります。

委 員 今回事件のあった中学校はほとんど人事に変更がないのですが、それに対応した人事ということを考えたりということはある

たのでしょうか。それともこれからあるのでしょうか。

教育職員課長 基本的には管理職は校長と教頭がおりますので、同時に変えるということは避けたいというのが一つの考え方です。現状、校長が今年度着任したものですので、校長は変更がなく、教頭は長くなりましたので、異動になっております。校長が残り、教頭が異動というのが当該中学校の状況となります。

教 育 長 まれに、校長、教頭が同時に交代になることがあります。せざるを得ない場合には。必ずではないです。どちらかが残るのが基本ですけども。やんごとなき事情があれば、二人とも代えるということもあります。

最後に教育職員課長が申し上げたとおり、もしかしたら若干変わる可能性があるのですが、基本的にはこれで進めさせていただきます。

委 員 教頭の複数配置は何校になるのでしょうか。

教育職員課長 例えばですが、真砂中学校は、かがやき分校があります。また、星久喜小学校ですと生実学校があります。こういったものも全部含めると、小中、特別支援学校全部で11校になります。

教 育 長 特別支援学校は3校とも複数配置しています。

委 員 今後増やす予定はありますか。

教育職員課長 現状としましては、検討しているところですが、教頭マネジメントサポーターを配置することで教頭の働き方には寄与しているところがありますので、それと比べて検証したいと考えております。教頭が2人体制の方が有効な場合と、教頭マネジメントサポーターを配置している場合の方が有効な場合もありますので、今後、調整していきたいと思えます。

委 員 この制度は昨年からはめているのでしょうか。

教育職員課長 今年度から実施しております。

教 育 長 教頭の2人体制ですが、配置している学校には本当に喜ばれています。

委 員 教頭職は本当に激務だと思います。

教 育 長 職員数でも、校長と教頭と並べて教頭マネジメントサポーターを位置付けています。

教 育 長 他にご意見等はよろしいでしょうか。それでは、この資料の取扱いについて説明をお願いします。

教育職員課長 今後ですが、各学校に対しては、3月14日に内示という形で、校長を通しまして伝達となります。また、記者発表ですが、例年と同様に、3月下旬を予定しておりますので、それまでの間、部

外秘ということで取扱いをお願いします。なお、会議資料は回収させていただきます。

教 育 長 他にご質問等ないので、議案第5号「職員の人事について」を、原案どおり可決したいと考えますが、如何でしょうか。  
(「はい」という声あり)

教 育 長 ご異議ないので、原案どおり可決とします。

## 9 その他

(1) 第3回定例会は、3月19日 水曜日 午後2時からとした。

## 10 閉会

鶴岡教育長より閉会を宣言